

全議員 視察研修報告

○日時 平成 23 年 11 月 27 日（日）～ 29 日（火）

○研修先

1 南相馬市との意見交換

櫻井南相馬市長の「とてつもない地震、とてつもない津波」の言葉に今までの想像を遥かに越した地震・津波であることが再確認できました。

「震災当初は市民の何人が亡くなり、どうなったのか情報も取れず、今となって 636 名の死亡と行方不明 10 名いるとの確認できた。」とのことでした。

また、市民 7 万 1 0 0 0 人の中で 2 万 7 0 0 0 人が避難先から戻っていないとの事実を挨拶の中で言う落ち着いた言葉の中に市民を思う隠された苦悩を感じました。

避難先は遠くはアメリカ・国内では北海道から沖縄と聞きました。4 万 2 6 0 0 人が避難先から戻って事業を再開しようとしても思うようにことが運ばない。南相馬市は汚染された地域で立ち入ってはいけないところだと思っている人が今でも大勢いるとも言っていました。

市民の原発に対しての気持ちはどうかとの質問に、「当市は電源交付金はもらっていない。市民はその日から外で地震の後片付けに追われ多くの市民が内部被ばくをしていると思う、そんな環境でした。もしそうであれば国に健康被害に対して請求していく。」との回答でした。

2 仮設住宅の状況

福島県と南相馬市の仮設住宅地 2 箇所を視察しました。

南相馬市が設置した仮設住宅は見たところ新しく、学校や商店街も近くにありました。福島県が設置した仮設住宅は棟数は多いが、見た目にも古いものでした。両者のつくり方に差を感じました。

どちらも 4 畳半二間で寒さ対策として玄関など二重構造となっていました。防寒設備の整備が遅れているようでしたが、今後整備が進むと聞きました。

住宅地前にはバス停があり、福祉バスが運行していました。

居住できる期間は 2 年間、その後は 1 年ごとの更新とのこと。収入が無く先の見えない不安や健康を心配していました。

入居者は、「ここに落ち着くまでに、避難所を 4～6 箇所回ったり県外に仮住まいをしたりと大変苦労した。今も県外に避難している息子がいるなど、家族がばらばらになってしまった。」と語っていました。

牧之原市でも、災害に備え仮設住宅の敷地や間取り、色彩等も検討し、規格の統一など協議・準備しておく必要があると思いました。

3 ガレキ仮置き場の状況

この写真は、南相馬市原町地区の海岸に近い震災前の農地に積まれたガレキの山です。

私たちが見たこの場所にはこのような山がいくつかできていて、市内にはこのようなガレキ収集場所が 12 か所もあるとのこと。表紙の写真をご覧になるとガレキの状況がおわかりになると思い

ます。

この海岸地区には、震災当初、津波で破壊された堤防や防風林、押し流された建物・家財・車などが散乱していましたが、それらを一カ所に集め分別したものがこの山です。

この場所に行く途中の田んぼの中で手作業によりガレキの収集にあたっている農家の方々にも出会いました。重機と人手が不足しており収集と分別は難航を極めているようでした。そのうえ、このガレキの最終処分方法はまだ決まっていないのです。

南相馬市は海岸から国道6号線までの間に津波で塩害を受けた広い農地があり、そこがこのような仮置き場になっていました。

牧之原市が被災した場合はガレキの仮置き場の確保さえ困難だと思いました。

4 計画的避難区域の現状

飯館村を車窓から視察した。この村は、計画的避難区域だが、通行は許可されている。途中、飯館村役場に立ち寄りました。警備の自衛隊員3名と役場の職員らしい女性一人に出会ったのみ、人影はない。庁舎建物、体育館、公共施設、運動場など一体として建設されていて新しかった。

庁舎玄関前の庭に飯館村村歌の石碑が建っている。近くのお地蔵さんの小屋から、子ども達が歌う村歌が流れている。なぜか心が痛みました。

放射能測定モニタリングがあった。持参した測定器で数値を測ると地上1メートルで3.2マイクロシーベルト、芝面地上で6.7マイクロシーベルトとなった。人が住めない地域となっていることを実感しました。

「原発」から30キロメートル以上離れ、「原発」から財政的支援もないこの村が「原発」による放射能被害を受け、人の住めないゴーストタウンとなっている現実。原発被害の恐ろしさを教えてくれました。

「原発事故の現状をしっかりと見て、はっきり物の言える議会になって下さい」との地元職員の言葉を重く受け止めました。

5 支援物資の提供

今回の視察には、支援物資を届ける目的が含まれています。

議員自ら積み立てをしている互助会費から20万円を取り崩し、南相馬市から要望された「今、一番欲しい物」の中から精米を届けることになりました。

南相馬市役所に到着後、救援物資の倉庫として使われている体育館に行きました。

体育館では、何台かのパネルトラックから物資を大勢で運び出していました。バスから精米10俵を全て降ろしてから引渡しをするのかと思い、広報委員の腕章をつけカメラを構えました。

現場はまったく違いました。牧之原市議会からの精米も、流れるように運び込む物資の一つとしてバスのトランクからあつと言う間に体育館に運び込まれて行きました。

「現場は甘くない」と、カメラを構えているのが場違いな感じがしました。



南相馬市長との意見交換



支援物資の提供



仮説住宅の状況①



仮説住宅の状況②



津波による被害



手作業によるガレキの収集



ガレキ処分の作業中



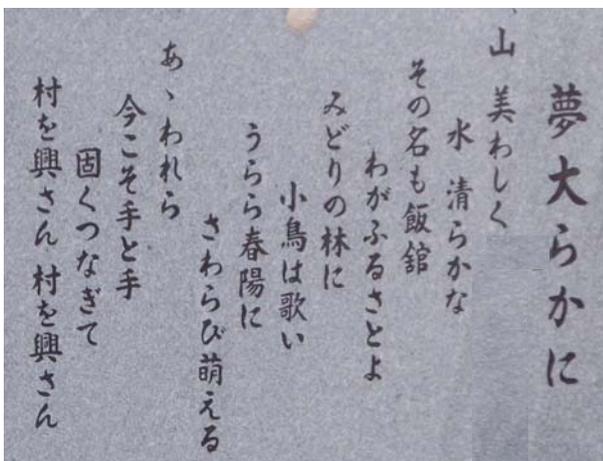
ガレキ仮置き場の状況



計画的避難区域の飯館村役場



持参した測定器での放射能数値



飯館村の村歌



避難後の住宅。
どの家もカーテンが閉められている。